

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4372500696
法人名	グループホーム 郷 有限会社
事業所名	グループホーム 郷 有限会社 たんぽぽ
訪問調査日	平成 20 年 11 月 17 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年12月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372500696
法人名	グループホーム 郷 有限会社
事業所名	グループホーム 郷 有限会社 たんぼぼ
所在地	熊本県鹿本郡植木町大字宮原177番地 (電話) 096-275-3080

評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年11月17日	評価確定日	平成20年12月16日

## 【情報提供票より】(20年10月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人
職員数	11 人	常勤	8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建て	0	1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

### (4) 利用者の概要(10月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.6 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	箱根崎医科歯科クリニック	植木シルバークリニック
---------	--------------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設6年目を迎えるホームの横には入居者が作られている野菜畑が広がり、理念“人権尊重 毎日を楽しみ 信頼”のもと、職員の笑顔で明るい対応が入居者の笑顔を引き出し、馴れ染みの関係や職員の寄り添いのケア・見守りにより生き生きと入居者の主体的な生活となって表出されている。職員も自信も持ってケアにあたり、入居者処遇について検討しケアの統一を図り、ゆとりを持ちながら良く観察をしている。運営者の高齢者福祉への思いが職員に浸透し、開設時より地域に目を向け積極的な交流を行い、今では地域との交流が常態化し、ホームの存在が認識され地域の一員としての役目を果たしている。ホーム内にはデイサービスを併設しているが、町内に今年7月には第二たんぼぼデイサービスも開所し、今後もますます地域福祉に貢献されることが期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を職員の気を引き締める一環として捉えている。昨年度外部評価では改善課題はあまり無かったとのことであるが、畳のコーナーの増設や入居者の処遇を全員で検討し、ケアの統一やゆとりあるケアに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度の自己評価は職員に聞き取りしながら、管理者と介護福祉士とで纏め上げている。外部評価に真摯に取り組むサービス向上につなげており、更に全職員が自己評価を行うことで個々の考え方の違いや力量を知る機会とされることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	全家族に案内状を出し、行政、町と地区の老人会長、民生委員等多数の参加のもと、定期的に入居者の活動報告・職員に関する活動報告や意見交換を行いホーム運営に反映させている。校区の民生委員全員の参加時には地域密着型としての勉強会を行う等有意義な会議となっていることが窺われる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時の近況報告や入特変時には随時電話連絡により家族の安心に繋げ、金銭管理は個別管理が行われ、領収証を家族へ渡している。年2回“たんぼぼ便り”を発行したり、日常写真を掲示し家族へのメッセージとし、家族の訪問時や運営推進会議が意見や苦情を聞く機会と捉え、花見と忘年会の年2回家族同士の交流を図っている。外部の苦情・相談窓口を掲示し、玄関に苦情処理箱を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議に老人会からの参加や中学生のナイスライの受入れ、小学生の慰問、地区の運動会での交流、ホーム前が小学生の通学路になっており下校時訪問する等地域の人々との交流を行っている。ホームの夏祭りに地域住民を招待したり、地区の草切り等の奉仕作業への参加、地区の負担金を支払い地域の一員として活動しており、地域の生活は充実している。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より“人権尊重 毎日を楽しく 信頼”の3項目の理念を掲げ、地域に根ざし、地域との密接な関係構築に努めている。	○	地域の中での生活は充実し、地域との密接な関係構築に向けた取組みにも努力され、地域に十分に認知されている。これまでの取組み姿勢を具体的に表現したり、地域と密着した関係方法等理念として掲げることを検討いただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し意識付けとし、管理者は日常的に事例を通して理念の浸透と実践に向け指導している。職員もプロ意識を持ち、“毎日を楽しく”のモットーで明るくケアに取り組んでいることが、入居者への関わりから推察される。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に老人会からの参加や中学生のナイスライの受入れ、小学生の慰問、地区の運動会での交流、ホーム前が小学生の通学路になっており下校時訪問する等地域の人々との交流を行っている。ホームの夏祭りに地域住民を招待したり、地区の草切り等の奉仕作業への参加、地区の負担金を支払い地域の一員として活動しており、地域の生活は充実している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を職員の気を引き締める一環として捉えている。昨年度外部評価では改善課題はあまり無かったとのことであるが、畳のコーナーの増設や入居者の処遇を全員で検討し、ケアの統一やゆとりあるケアに取り組んでいる。今年度の自己評価は職員に聞き取りしながら、管理者と介護福祉士とで纏め上げている。	○	外部評価に真摯に取り組むサービス向上につなげている。更に全職員が自己評価を行うことで個々の考え方の違いや力量を知る機会とされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全家族に案内状を出し、行政、町と地区の老人会長、民生委員等多数の参加のもと、定期的に入居者の活動報告・職員に関する活動報告や意見交換を行いホーム運営に反映させている。校区の民生委員全員の参加時には地域密着型としての勉強会を行う等有意義な会議となっていることが窺われる。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席や介護認定更新時等役場へ出向き、密な連携を図っている。行政から介護教室の要請があれば積極的に行う意向である。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時の近況報告や特変時には随時の電話連絡により家族への安心に繋げている。金銭管理については個別管理が行われ、領収証を家族へ渡している。年2回“たんぼぼ便り”を発行したり、日常写真を掲示し家族へのメッセージとしている。	○	毎月の請求書の中に担当職員による入居者の生活状況や健康状態を記載して送付されると更に家族との連携や安心につながるものと思われる。全員で検討されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議が意見や苦情を聞く機会と捉え、花見と忘年会の年2回家族同士の交流を図っている。外部の苦情・相談窓口を掲示し、玄関に苦情処理箱を設置しているが、苦情等は出ていない。	○	昨年の夏祭りには多くの家族の参加があり、家族と職員との交流の場やざっくばらんな話ができたとのことである。今回の外部評価のアンケート結果を活用したり、家族同士の意見交換の場としての家族会となることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者兼管理者は馴染みの職員によるケアの重要性を認識し職員とのコミュニケーションを図り、離職防止に努めている。離職も無く、産休や育児休暇等福利厚生も整備され、ストレス解消に親睦会や忘年会等を行っている。		
5. 人材の育成と支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員育成に外部研修参加を推奨しており、実践研修・リーダー研修等の外部研修への参加、鹿本・菊池ブロック会の研修会に職員が交代で参加している。外部研修に参加した職員が伝達講習を行い情報の共有化を図る等意欲的に取組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック会議で同業者との交流や情報交換を図り、2・3ヶ月毎に開催される研修会に職員がローテーションを組んでの参加や場所提供もしており相互交流に取組んでいる。管理者は地区のケアマネジャー協会の会長として研修会を企画参画しサービスの向上を図っている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より本人・家族の希望や生活歴、心身の状況等の情報を把握し、併設のデイサービス利用により馴染みの関係を作っており、抵抗無く入居されている。		
----	----	--	---	--	--

### 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりに向き合い傾聴に努めており、入居者のできることを中心にお互いに協力しながら一日を過ごしている。ホーム横の広い畑では野菜作りに勤しまれる入居者もおられ、入居者の得意分野を發揮してもらおうと漬物作りに一緒に取組んだり、敬う姿勢を大切に取組んでいる。入居者同士もお互いを気遣い、支えあう姿も垣間見れた。		
----	----	--	--	--	--

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### 1. 一人ひとりの把握

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴や希望を把握し、日常の関わりの中でも個々のサインを察知している。何でも遠慮なく言われる入居者や意思の表出が困難な入居者には職員の観察や声かけにより、個々の思いを大切に支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の担当ケアマネジャーからの情報や本人・家族の意向を踏まえ、担当職員に意見を聞き、個別的な介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヶ月の見直しとし、経過記録に職員の観察や気づきを詳細に記録し、進捗状況や評価の他入居者にもケアについて話し合い、心身の変化に応じ現状に即した新たな支援計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物・受診への同行、デイサービスが併設されており一緒に花見やみかん狩り等季節毎に出かける等柔軟に対応している。また、看護師4名の職員配置や日々の健康管理により、異常の早期発見や入院回避に向け取り組んでいる。又、宿泊室も用意し遠方からの家族の訪問に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じ、それぞれのかかりつけ医を受診を支援している。定期受診や特診時に職員が同行し、受診後の特変時には家族に状況を報告し連携を図り、協力医療機関の確保により適切な医療を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制指針の中に看取り体制、看取り介護の実施とその内容を詳細に記載し、家族に説明を行い同意書を受け入れている。病状に応じ、かかりつけ医と連携を図りホームでできる最大限のケアに取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の目線での会話や移動介助時尊敬の念を持って優しく対応している。記録物は事務室で管理し情報漏洩に配慮し、個人情報保護マニュアルを掲示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールも無く、入居者個々のアセスメントに基づき、その人らしい生活を支援している。午前中散歩に出たり、自宅での継続として居室でゆっくりと過ごされる入居者等、個々のペースを優先して取り組んでいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は料理に偏りが無いことやバランスの良い献立を考慮し、入居者が作られる旬の野菜で季節感を提供したり、一日・十五日のお赤飯や季節行事食等を提供している。調理好きな入居者は調理へも参加され、食前には職員が献立を説明し、楽しい食事となるよう支援している。	○	今のところ、あまり介助の必要は無く、食の進行状況等を確認しながら別テーブルでの食事となっている。今後ますます嚥下状態の悪化や高齢化が進むと思われる、同じテーブルでの食事とすることにより見守りの徹底や会話も進み楽しんだ食事となることが期待できる。全職員で検討いただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前のバイタルチェックにより健康状態を確認し、週3回午前中に支援している。入浴拒否も無く、朝一番の入浴を喜ばれ、入浴剤を使用したり、季節行事にあわせ菖蒲湯やゆず湯等楽しく入ってもらうよう取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることを把握し、出番や得意分野を発揮できるように支援しており、全員が役割を持って生き生きと生活している。食事では挨拶係や台拭き、お茶くみ等自然発生的に行われ、洗濯物係りとして洗濯物を干したり、たまたまれる姿も主婦としての生活の延長であることが窺われた。入居者の手作りふきんを使用したり、入居者の作品の掲示から多様なアクティビティが行われていることが確認でき、自信回復となっていることが窺われる。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や食材の買出しへの同行、ドライブ等個々の希望に応じた外出が日々行われている。また、家族も日帰りで連れ出されたり、墓参等協力的である。コスモス見学等季節に応じた外出機会も多く、積極的な外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が認識しており、玄関、裏口、居室に鍵をかけず、入居者一人ひとりの言動や行動をさりげなく見守り、所在確認を徹底している。外へ出たいという様子を察知し、納得されるまで散歩に付き合ったり、地域住民も見守りされる等協力体制が構築している。		
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署立会いでの訓練と年1回自主避難訓練を実施している。職員は日常的に火元確認を怠らず、熱・煙探知機、火災報知機を設置し、緊急連絡体制も整い、非難場所も確保している。地元の消防団に災害時の協力を要請し、職員も消防団の一員でもある。	○	更に地域住民に訓練日時の周知を図り、地域住民の安心感や協力が得られることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況や食事意欲に応じて食事摂取量を記録し、調理師がカロリーを計算し支援している。毎月の体重測定による健康管理や個々の嚥下状態や歯の状態等によりキザミ食やお粥等での支援、糖尿病の入居者も血糖値を下げる事ができる等適切な支援であることが窺われる。水分量のチェックはしていないが、毎食時や午前午後のおやつタイム時、入浴後の水分補給を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路に面した垣根、玄関周りには季節の花が植えられ、生活の中心である共有空間には畳のコーナーが新設されゆっくりと寛ぐことができる。夜の照明対応に各居室のドアには紙を貼り対応し、ヒノキ材を使用した室内は家庭的な雰囲気を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の持込やレイアウトを本人・家族にまかせており、箆箆や鏡台・生活用品等使いなれた馴染みの物が持ちこまれ、本人が使いやすいように自由にレイアウトされている。本を読むための机と椅子を持ち込み家庭生活の延長としての居室等本人が居心地よく過ごすため家族の思いが込められている。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム郷有限会社「たんぽぽ」
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県鹿本郡植木町大字宮原177番地
記入者名 (管理者)	管理者 畠山正守
記入日	平成 20年 10月 29日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人権尊重、毎日を楽しく、信頼が事業所の理念であるが管理者、介護従事者はこれに基づき、利用者が生活を送れる様、取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	機会があるごとに、運営理念を守って介護にあたる様に話をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には見やすい所に掲示し、利用時に説明している。地域の方には年に1回夏祭りを実施しているが、そのときに施設の理解をしてもらえる様、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民の方には挨拶や話かけ等、充分コミュニケーションが取れるよう働きかけを行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の奉仕作業に参加、又、年に1回夏祭りを実施し、地域の方や老人会の方等にも参加していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等において、何か心配事や相談事等あれば気軽に相談下さいと働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価した事された事について極力、改善できる様、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、サービス向上につながる様、極力、改善に向けて、取り組んでいる		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は蜜にとっている。市町村より介護教室の依頼があれば積極的に行う予定。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等については理解しているが、現在まで、その必要がなかったため、活用していない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、介護従事者は、虐待は絶対にしない、させないの認識を持ち、虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、家族や本人に充分説明を行い、契約書や重要事項説明書にもとづいて納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者、職員が対話をし、利用者の要望等、何かあれば、反映できる様にしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時やホーム広報(年2回発行)等により報告している。又、特変あれば、その都度、電話にて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族面会時等において意見を聞いている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて提案や意見を聞く機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は十分に配置している。又、無理のないローテーションにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員や管理者等、要望や希望を聞き離職を最小限に抑える様になっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のミーティングや法人外の研修等職員の希望があれば参加してもらい、職員としての資質の向上に心がけている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本、菊池ブロックの研修会等、必ず1名以上は参加して、地域同業者との交流をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不定期ではあるが時々、慰安や、懇親会をして、ストレスの解消に取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員数が少ないので勤務状況や努力については把握し、職員の何か提案等があれば取り入れられる様にしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでにおいて、本人の希望や不安に思っている事等、聞く様にしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでにおいて、家族の希望や不安に思っていること等、聞く様にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は支援相談員としての業務経験もある為、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一建物内にて通所介護事業もしている為、通所介護を利用してのホーム入所を進めている為、本人にとっては馴染める様である。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者本人と一緒に食事作りをしたり、同じものを食べたりし、支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や来所された時に本人の状態や様子等、家族に報告し本人の状態をよく理解してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に出来るだけ多く面会してもらい、いつ面会に来所されても良い様に時間帯の設置等していない。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人、友人等面会に来所された時、本人の居室でお茶等を飲みながら語られる様にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	H19. 10. 1. 畳の居間を増築、完成したので、利用者同士が語らえ関わり合いが持てる様になってきたと思う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても継続的な支援が必要とされる利用者や家族には、かかわりを持つ様になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に毎日を送ってもらう様、努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の介護計画にも取り入れ、サービス利用の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状を総合的に把握し、介護計画を作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の担当ケアマネや、本人、家族の意向等により、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの介護計画の作成のほか、特変や変化が生じた時、新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等、個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、希望等に応じ柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム全体として、地域の民生委員や、駐在所、消防所、学校等と協力、連携している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居中は他のサービス利用は出来ない為、実施していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等にも地域包括支援センターに必ず出席してもらい協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけ医に定期受診や特診等により、適切な医療が受けられる様に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が専門医なので連携し治療を受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師2名、準看護師2名が職員として在職している為、充分日常の健康管理や医療活用の支援が出来る。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時、サマリーのやり取りや情報交換等密にしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期となった時、家族にはそのつど早く説明を行い、かかりつけ医とも相談しながら連携している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在まで終末期の人は居ないが重度化した人に対しては、介護計画の見直しをして、今後の変化に備えている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む際、申し送り書を発行したり、情報交換を行いダメージを防ぐことに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者に対して、丁寧語で話す様に、又、守秘義務を守る様にしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	特に午後の時間帯に入居者の中に職員が入り、対話を持つ様にして入居者の思いや希望を表せる様、働きかけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントに基づいて、1人ひとりの介護計画を作成し、その人らしい生活が出来る様、支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時は特に本人の好まれる身だしなみの支援を行い、理容、美容も本人の希望どりの支援を行っている。判断等できない方については、職員が声かけを行い対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞き立てている。又、食事作りや、片付け等、入居者の出来る範囲で参加してもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコ等の制限はしていないが、現在好まれる方がいない。おやつ、飲み物等については、入居者の希望で作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に介助を要する人は、定期的にトイレに誘導し、排泄チェック表を作成している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴者、個人個人に合わせた入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に個人の行動に関して制限はしていない。個々の生活習慣やその時々状況に応じて生活されるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自ら自分の役割を見つけ出したり、こちらからお願いしたが、いつの間にか、その人の役割になったりと、入居者全員が何らかの役割を持っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、入居者、1人ひとりの希望や力量に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物等で外出する機会を充分つくっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	10人乗りのマイクロの他に2台の公用車がある為、季節に合わせた外出、ドライブを実施している。又、家族と共に外出や、外泊に対しては、制限していない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等希望があれば、そのつど対応しており、ダイヤルを回したり、話の内容を伝えたり、必要があれば介助している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、友人等が面会に来所された時等、職員は笑顔で挨拶が出来ている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないとの認識を全職員が持ってケアにあたっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵はかけず、入居者も自由に出入りが出来る様にしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して、利用者の所在や安否をプライバシー侵害にならない様、行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物品はなくすではなく、きちんとした場所に収納する様にしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者1人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。又、誤嚥時の吸引器等も準備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時対応マニュアルの再認識や消防署より救急蘇生法指導訓練等を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の自衛消防訓練の実施や地元消防団に災害時の協力依頼等をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時等、利用者本人の現在の状態やリスク等に対し説明を行い、ケアプランにも取り入れたり等、家族と話し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の方が、いつ、どこで、急変されるか分からないと言う事を職員に教育している。又、看護職員が多い為、対応も出来ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示どりの服薬は出来ている。薬の目的や副作用の確認についても充分行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事には食物繊維や乳製品を取り入れ、レクリエーションでも体操等を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、歯磨きの声かけを行い、自分で出来ない方については、介助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人によってカロリー摂取量を調整している。糖尿、高血圧者にたいしても配慮を行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰った際、手洗い、うがい等行っている。又、インフルエンザの予防接種も受けている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所で使用する物については、衛生管理は保持できている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には特に気を使い常に花を植えている。表札も手作りのものをかかっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	造りが一般家庭と変わりなく、物品や、装飾も家庭的である。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に横になってくつろげる場所があり、入居者同士、自由に過ごされている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用されていた家具や食器、道具等の持ち込みを進めている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は毎日行っている。冷やしすぎ等については、各自に合った温度に調整し、タイマーの活用を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全、バリアフリーになっている。又、手すりも要所には、設置してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の能力を十分に活かし、自分で出来る事は自力で毎日生活される様に支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの前には広い畑があり、野菜や花を植えている。入居者と職員と一緒に草取りや水やり、野菜の収穫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホーム横には広い畑があり、野菜の栽培や収穫が出来る。又、家族が面会に来所されても十分に駐車場が確保されている。法人で10人乗りのワゴン車、及び、他に2台の車輛を所有している為、全員で外出が出来る。